Tokyo Kasei University

保坂 遊　HOSAKA Yu

子ども支援学部 子ども支援学科　教授

発達支援プログラムとしての美術表現活動の確立へ向けた脳内ネットワークの解析

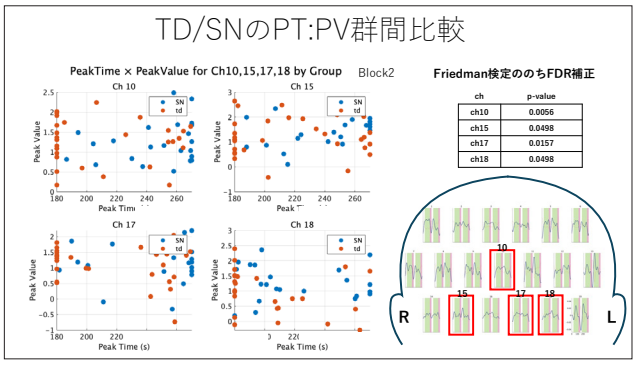
キーワード　臨床美術，発達支援プログラム，脳機能解析，造形表現，アートセラピー，幼児教育・保育，ウェルビーイング，認知症ケア

研究内容

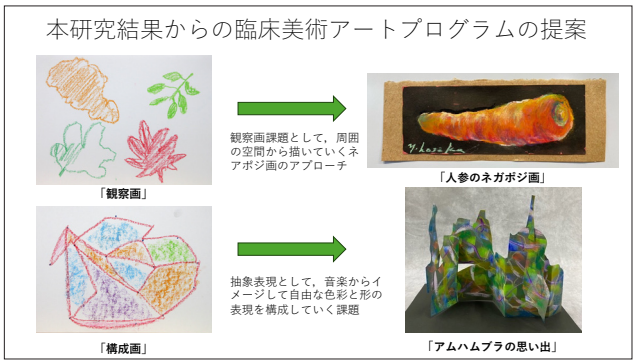
美術創作活動が脳機能にどのような影響を与えるか，機能的近赤外分光器（fNIRS）を用いて前頭前野のヘモグロビン濃度の変化を測定した結果，成人を対象とした群間比較では視覚再現的課題において美術習熟度の影響が大きいことが認められました．

また，定型発達児群が発達障がい児群よりも，視覚再現的課題において有意に賦活されることや，経時的な Oxy-Hb 濃度上昇のピークが速いことも示唆されました．

このことによって，子どもの特性に応じた発達支援としての課題選定の工夫や設定時間に考慮することが重要であることが分かり，臨床美術を活用した有効的なアートプログラムの開発に取り組んでいます．



定型発達児群と発達障がい児群では描画課題中の前頭前野活性に差が認められた．



ネガポジを意識する課題や，抽象を立体に展開する臨床美術の工夫に取り組んでいる．

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

- 「発達支援プログラムとしての美術表現活動の確立へ向けた脳内ネットワークの解析」臨床美術ジャーナル，2025,vol.1,
- 「美術表現活動は前頭前野を活性化するか　－美術習熟度と発達支援の視座からの分析－」臨床美術学会第16 回大会 2025 研究発表概要，2025
- 科研費基盤研究 ©20K02706「発達支援プログラムとしての美術表現活動の確立へ向けた脳内ネットワークの解析」，2020-2024 年度

社会連携・産学連携の可能性

発達支援や障がい児支援，幼児教育・保育，更には生涯教育，認知症ケア・予防としての臨床美術実践やアートプログラム開発に関わる社会連携や共同研究の展開が期待されます．